

地域ケア会議において抽出された地域課題について

- 抽出対象：令和2年1月から同年12月までに開催された地域ケア会議（全4回）
 - ・ 上記対象期間中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、令和2年3月～10月まで会議の開催を中止としたため、検討できたケース数が少なく、地域として抱える課題が見えるほどのケースの積み上げはできていない状況である。
しかしながら、地域課題ではないが、コロナ禍における特有の課題が出現したため、下記のとおり報告し、解決に向けて取り組んでいくこととする。
 - ・ また、感染症の影響により昨年度報告した下記の課題に対する取り組みについても実施できていない状況であるため、引き続き、課題の解決に向けて取り組んでいくこととする。

年度	課題	現状・背景	今後の方向性	具体的な取組
令和2年度	感染症流行に伴う生活不活発が元の生活様式が原因で不活発なのか正しく判別することが難しい。	感染症流行により外出自粛及び自主サークルの活動等の中止が相次ぎ、生活不活発者が増えていると言われているが、感染症流行前から元の生活様式が要因で不活発が進んだ方についても、アセスメントが十分でなく、感染症流行を環境要因と位置付けてしまう傾向がある。 そのため、真に原因となっている課題が見えておらず、適切な課題解決へと導けない可能性がある。	ケアマネジャーのアセスメント力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西部機能強化型高齢者相談センターによるセンター職員向け研修の内容を充実させることでセンター全体の能力の底上げを図る。 ・ 各高齢者相談センター長を中心に、自センターの職員に対する指導等を積極的に行うことで、日頃の業務の中でのスキルアップに努める。 ・ 上記の取組を中心に行いながら、リハビリテーション職等の専門職の派遣が可能となった段階で、派遣事業を開始し、アセスメントに同行してもらう等、側方支援を受けることで、アセスメント力の向上を図る。
令和元年度	専門的課題（リハビリテーション、栄養等）に対応するマネジメント技術が不足している	リハビリテーションに係るアセスメントや、栄養に関する課題へのアプローチ等について、マネジメント技術が不足している。 そのため、自立支援に資するケアマネジメントの積み上げができず、改善や自立（サービス終了）に適切につながらないケースもある。	ケアマネジャーのケアマネジメント力のスキルアップを目指す。	地域ケア会議で検討したケースの現場（自宅、通所型サービス事業所等）にリハビリテーション等の専門職を派遣し、直接ケアマネジャーに対し、専門的アドバイスをを行う。【感染症の流行状況を鑑み実施を検討】
	精神疾患を有する者や知的障がい者へのケアマネジメントについて、知識・経験ともに不足している	精神疾患を有する者や知的障がい者の生活支援は、65歳未満までは障がい者総合支援法によって行われているが、65歳以上になると、障がい特有の事由がない生活援助は、介護保険のサービスに移行する。 高齢者の増加とともに、上記のケースが増加していく中、障がい者分野の知識や経験不足から、支援に困難を感じている。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者分野の研修及びケーススタディを企画開催 ・ 庁内において、障がい者福祉課や生活福祉課及び子ども支援課等、必要な部署との庁内連携を図る。 ・ 庁内連携を充実させ、ケアマネジャーを支援する体制を強化する。

※ 「ケアマネジャー」とは、ケアマネジメントの実施する者のことで、ここでは、居宅介護支援事業所の介護支援専門員のみならず、高齢者相談センターの3専門職種及び介護支援専門員も含む。